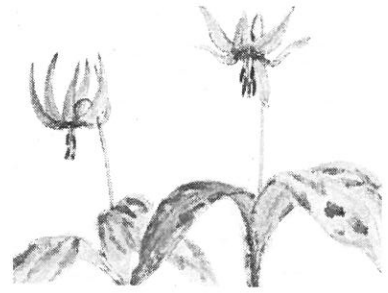


いこる草



津村 明子

「未曾有の…」 「100年に1度の…」 「戦後最悪の…」 というさまざまな表現でこのたびの大不況が語られています。では、前回の不況とは何だったのでしょうか。

第1次世界大戦後の慢性的な不況下、1927年（昭和2）3月14日に当時の蔵相が、衆議院で「東京渡辺銀行破綻」と失言し、翌日から各地の銀行で取り付け騒ぎがおこり金融恐慌がはじまりました。さらに1929年には、ニューヨークの株式市場が大暴落し、世界恐慌に入っていきます。この一連の経済状況が「昭和恐慌」とよばれているものです。

今回の不況は、派遣労働者の大量解雇に象徴されますが、前回の不況時は大学生の就職難が大きな社会問題となりました。とりわけ東京帝大（現在の東大）生の就職難が大きな話題となり、「大学は出たけれど」という流行語になりました。

なぜ私が、前回、昭和2年の恐慌に関心があるのか…。

それは私の父が昭和2年卒業の学生であり、失業者になったからです。大阪の実家に舞い戻り、家業（地主兼綿問屋）を継ぐのですが、先代（私の祖父）は日露戦争で戦死しており、経済的に落ち目になっていました。結婚後も家業は振るわず、少し儲かってもお茶屋遊びなどで浪費し、夫婦の争いは絶えなかったようです。母はいつも「子供にはええお父さんやけど、私の結婚は失敗やった」と言っていましたし、父は「おかあちゃんはなあ、商売人はきらいやねん。郵便局や国鉄の勤め人がええんやろ」（非常に差別的な言辭）と投げやりで、「大学は出たけれど」の後遺症が家族にも大きな影を落としていました。当時としては、女性は離婚しようにも生きる場がなく、母はほんとかかわいそうだったと思います。

アメリカのサブ・プライムローンに端を発した金融恐慌が、たちまち世界中をまきこんでしまい、まだ出口が見えない状態の上、日本は未曾有の政局困難に陥っていて、舵の壊れた船が大海原をただよっているようです。回復のための手段は何か、グローバリゼーションから日本の企業、労働者はのがれることができるのか、「労働者派遣の規制緩和は日本の企業が国際競争に勝つために絶対必要」と叫び続けてきた企業の責任をどうするのか。

現在の若い失業者たちには、帰る故郷もなく、家庭を持つ当てもない。日本の将来に大きな禍根を残す現状からの脱出を、早く考えないと…とあせっています。

2009年2月28日 記

つむら あきこ（いこ☆る代表）

いこる草



津村 明子

6月9日の読売新聞（夕刊）のトップ記事は、「パワハラ相談 急増3万件」でした。上司からの嫌がらせ、「パワーハラスメント」に関する相談が、全国の労働局にある総合労働相談コーナーに相次いで寄せられ、08年度件数は3万2,242件と、前年度より3,907件増。5年前の5倍となり、厚生労働省は今年度から、労災認定の判断基準に、はじめて「パワハラ」によってうつ病になった場合などを盛り込んだというのが概要です。

「パワーハラスメント」は、その実態はまだあまり知られていないのではないのでしょうか。「セクシャルハラスメント」も、1989年に福岡市で出版社に勤務していた女性が、上司からの誹謗・中傷を訴えた、日本ではじめての裁判がマスコミに大きく取り上げられ、その年の新語・流行語大賞の新語部門・金賞を受賞したことで一般化したのでした。

職場で日常化している精神的・肉体的暴力に対する概念が「セクハラ」「パワハラ」という言葉に集約されることにより、初めて職場で受けるいじめや嫌がらせを訴えることが出来るようになってきたのだと思います。

私が新人のときから30年間働いた職場（NHK大阪放送局）では、3～5年で男性は転勤しますので、気の合う人とチームを組んでいるときは仕事も楽しいのですが、ヘンなのが来ると職場が暗くなることが多いのでした。上司となると、「評判の女好き」とか「女性を辞めさせる名人」とかが大阪局にやってくるとたいへんでした。男性たちは、大阪ではダレが犠牲になるか、ダレが退職するかと興味津々。転勤してきた部長が、プロ野球の「近鉄」（当時の）ファンだったら、部員全体が「近鉄」ファンになるという迎合ぶりなんですから。

新人時代に目にしたことは、まだテレビ番組は全部ナマ放送で、終わって女性の担当者が部屋に戻ると、仁王立ちになった部長が「何だあの放送は！ なってない！ 55点！」とどなるのです。女性はトイレに駆け込んで号泣していました。女性の隠れ場所はトイレだけなのかと情けなくなりました。男性にはそんなことしないのに、どうして女性だけにつらく当たるんだろう。私は何を言われても絶対に泣かないと決心しましたが、女性が泣く場所はそれからトイレしかありませんでした。

私が、泣かなくてすんだのは、周りの男性たちに「あなた達と対等に働きたい」と、絶えず議論し続けたことと、誰も引き受けて手の無かった組合役員になり、管理職と対等に渡り合えるようになったことだと思います。

2009年6月15日 記

つむら あきこ（いこ☆る代表）

いなる草



津村 明子

最近電車の中で、席を譲られることが時々あります。天王寺～浜寺間を走っている通称チンチン電車にのり、天王寺で市営地下鉄に乗り換えるのが、通勤コースです。その、帰りのチンチン電車でのこと。初めて席を譲られたとき、「なんでわたしに？」と思い、「いいえ、大丈夫です」とお断りしたのですが、相手の方が落胆される様子を見て座らせてもらいました。そんなに疲れた顔をしてるのかしら、そんなにおばあさんに見えるのかしらと複雑な思いに駆られました。

たしかに来年は「後期高齢者」の仲間入りだし、ま、いいかと思い、その後は素直に応じられるようになりました。席を譲ってくれる人は、学校帰りの小学生の男の子、女の子、中年の女性たちです。

小さいときは病気がちで、すぐ扁桃腺が腫れて高熱を出したり、風邪を引いたり、よく学校を休んでいました。5年生になってからはその後ずっと皆勤賞をもらいっぱなしで高校を卒業しました。小学生時代の軍国主義鍛錬が功を奏したのかも（これは冗談!）。

さしも頑健な私にも、今から振りかえると、昨年のお正月に老いの影がさしました。年末から風邪を引き新年にもちこしていました。いつものように売薬だけでなおそうとしたのですが、休み明けに仕事がたてこんでいたので、近所の医院が開くとさっそく飛び込みました。

これが大失敗の元になったのです。「たまには健康保険も使わないと」「売薬よりは上等なお薬がもらえそう」と思ったのがいけませんでした。熱が38度あったせいか、すぐ点滴ということになり、30分ほどウトウトした後、インフルエンザではないと診断され何種類もの薬をもらいました。窓口で払ったのは2,400円。「えー、こんなにたくさんお薬もらっていいの?」と感激して、処方どおりきっちりと服薬。

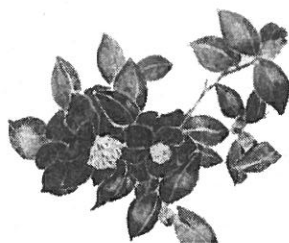
翌日、熱は下がりましたが、予期せぬ地獄が待っていました。生まれて初めて経験する倦怠感。起き上がることができないほどの腰痛。食欲が全くない。何をやる意欲も起らない。止めようのない下痢。これならいつもの風邪のほうがマシだと思いました。こんなにきっちり薬も飲んでるのに、とふと処方箋を見て仰天。副作用の項目に私のいまの症状が全部ありました。なんと正直に反応したことでしょう。丸5日で常態に戻りましたが、体重が54キロから49キロに減りました。

仕事にでると、「顔が小さくなったね」といわれました。1年9ヶ月たった今でも、体重は49キロ。筋肉が落ちた分、しわがふえてしまったようです。唯一よかったことは、ダイエットが2,400円ででき、きつくて着れなくなっていた服にもう一度袖を通すことができるようになったことです。

2009年9月14日 記

つむら あきこ（いこ☆る代表）

いこる草



津村 明子

世の中変わった・・・と最近よく思うようになりましたが、12月6日の各紙の朝刊に一斉に載った記事には驚かされました。一番派手に書いたのは産経新聞。1面トップに「4割『子供必要ない』」「7割『結婚しなくてよい』」という大きな活字が躍っていました。

これは内閣府が10月に行った男女共同参画に関する世論調査の結果で、全国の成人5千人から聞き取り調査で回答を得た中身なのです。担当者は、国民の家庭に対する意識の変化と、個人の生き方の多様化が進んでいることがわかったとコメントしていますが、私はそんなのきなことをいつている時ではないでしょ、このままでは日本はつぶれてしまうよと言いたくなりました。

詳しい数字を見てみると、子供を持つ必要はないとした人は、男性が38.7%で、女性が46.5%。年齢別では20歳代が63%、30歳代が59%と高く、若い世代ほど子供を持ちたくないと答えています。一方、「結婚は個人の自由だから、しなくてもよい」と考える人は70%台に跳ねあがったとのこと。

日本が少子高齢化先進国になってから、もう20年以上にもなろうとしているのに、政府の少子化対策には見るべきものがないまま現在に至っています。世界には、少子化対策に成功している国々があるにもかかわらず、その対策を深く研究するでもなくサボってきた政府の責任こそ問われるべきなのです。最近では、医療対策の貧困とも絡んで、出産直前の急病産婦を受け入れる病院がなく、救急車に乗せたまま長時間クライマワシにして死亡させるなど、安心して出産もできない事態がおこっています。

また、昨年の日比谷公園派遣村に象徴される、「派遣」で働く若い人たちの大量失職や、引き続き学卒者たちの「超氷河期」と言われるほどの就職難など、将来に希望が持てない社会では、結婚も子育ても夢のまた夢としか言いようがありません。長い自民党政権の悪政の付けを払わされる上に、世界恐慌の波に襲われ、新政権もお気の毒としか言いようがないのですが、これまで何が欠けていたのか、修復する箇所はどこなのか、国民の声をしっかり吸い上げて、新しい日本を構築してほしいものです。

2009年12月15日 記

つむら あきこ (いこ☆る代表)

いこる草



津村 明子

先日の2月27日、「労働と人権サポートセンター・大阪」主催『健康で人らしく働く環境づくりのための講座』の講師を務めてきました。テーマは「職場におけるセクハラ・パワハラ」の根絶へです。

いこ☆では2年連続でセクハラの講座を開催していますが、昨年のタイトル、「職場でハラスメントにあったとき」が示すように、働く女性が対象になっています。今回は主催が男性中心の組織なので、たぶん男性の参加者が多いだろう、まじめにこのテーマに関心をもってくれるのだろうかと心配でした。

開始時間には満席となり、女性は4、5人でした。型どおり、セクハラ、パワハラのご定義から入り、セクハラは1998年改正の男女雇用機会均等法で事業主が防止のための配慮をしなければならないとされ、2007年の改正では、男性へのセクハラも発生するようになったため、その保護と、事業主に対して必要な措置を義務づけたこと、パワハラには法律上の措置はまだないことなどを説明し、いこ☆の電話相談でもこの1年間ではセクハラ、パワハラのご相談が最も多かったことを報告しました。

後日、出席者へのアンケート集計が送られて来ましたのでポイントだけ紹介します。
<今回の講座のご感想>

- * 過去に対処した具体例と、うまく解決できた事例、出来なかった事例を教えてください。
- * どこまでがセクハラ・パワハラになるのか、判断が難しい。
- * 面白い講座でした。研究者の話より、実体験を経た津村氏の話は説得力があった。
- * 労組などの上層部の意識改革が必要ではないか。
- * 裁判などの勝ち負けを優先するのか、被害者の利益を優先するのか。被害妄想や鬱的な態度にどう対処していいかわからない・・・など。

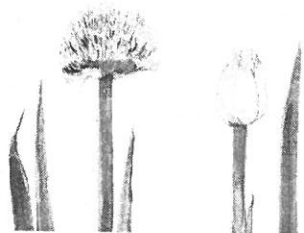
<あなたの周辺でセクハラ・パワハラのご事例はありますか>

全員が具体例をあげておられました。

講師としての感想： 意に反して皆さんが今後の取り組みに非常に前向きになっておられたことに感激しました。来年度も同じテーマでやることになっていますので、「いこ☆」から、実際に相談に当たっている方や、相談者に寄り添って、事業主と交渉に当たっている方に講師をお願いしたいと思います。

2010年3月15日 記
つむら あきこ (いこ☆代表)

いなる草



津村 明子

私は、一度も「携帯電話」を持ったことがありません。いくつか理由がありますが、その際たるものは、もって歩くのが重い、バッグに入れたくないということです。

NHKの新人の頃は、まだラジオ時代だったので、ショルダー型の録音機をいつも持ち歩いていました。予備のテープ2〜3本と、私物を入れるバッグも持たねばなりません。その上、おまけに子持ちになったので、通勤途中の保育所まで0歳児を抱えていかねばなりません。

その後、ラジオ時代はすぐ終わり、テレビ時代になったので、重い録音機とはお別れしましたが、持ち物を軽く・・・というクセは今もずっと続いています。

NHKを退職して1988年に大阪府の職員になった頃、報道部の記者たちは「ポケベル」を持たされていて、ポケットに入れているベルがなると、あわてて公衆電話を探して走りまわっていました。現在、あるテレビ局の記者をしている息子が家に尋ねてきても、テーブルの上に置いたケイタイがすぐ鳴り、ゆっくり話しもできないほどです。

ケイタイが普及し始めた頃にパソコンとの付き合いは始めましたが、ケイタイを使って、出演交渉、スタッフとの打ち合わせをするなどの仕事から、報告を受けて次を考える仕事に変わったため、ケイタイは不必要でした。その代わり、パソコンは超必需品で、早朝に開いて他方面とのスケジュールの調整をおこなうことで1日が始まります。

通勤電車では、座れるとたいていぼうっとしていたり、うたたねをしています。以前は新聞を読んでいる人が多かったのですが、今はほとんどの人が、食い入るようにケイタイをみえています。たぶんメールの着信の確認なんでしょうね。なんだかせわしないなあと思いますが、コミュニケーションのありようがケイタイによってすっかり変わったんですね。

ひっきりなしに情報伝達ができることのプラスとマイナスは、今後だんだんとわかってくることでしょうか、私は誰からも邪魔されない時間を多く持ちたいと思っています。

「津村さんは、なかなか連絡がとれないから困る」ということで、ご迷惑をおかけしている皆さんに深くお詫びを申し上げます。

2010年6月14日 記
つむら あきこ (いこ☆る代表)

いこる草



津村 明子

今年の夏は私が生まれてこの方、一番暑かったように思います。今日は9月15日ですが、やっと午前中の気温が28度にまで下がり涼しくなりました。昨日は民主党の代表選でした。マスコミの騒ぎすぎにうんざりすると同時に、新リーダーは日本を今より少しだけでも安心安全の方向に舵を切ってほしいと切望せざるを得ませんでした。

今年になって突然、お年寄りの所在不明が相次いでいます。家の中で一人の男性老人が白骨死体で見つかったのが発端でした。同居の息子は無職で、父親の年金を生活費にしているため死亡届を出していませんでした。それにしても、だんだん朽ちていく父親と長らく一つ家で寝起きする心情はどのようなものだったのでしょうか。

その後、各地で100歳以上の高齢者の所在不明が相次ぎ、お役所の実態把握がままならない実態があきらかになってきました。

1989年(平成元年)、日本中が「1.57ショック」というものにうちのめされました。日本の女性が一生の間に生む子供の数の平均が1.57人という統計数値＝「合計特殊出生率」が発表されたのです。このまま出生率が低下していけば日本の将来が危ういということに国民が初めて気づいた瞬間でした。ますます高齢化していく社会をどう支えるのか、生産人口は減る一方なのに・・・。

おりしも、1983年に制作された映画「楢山節考」がカンヌ国際映画祭グランプリ賞を、翌年、日本アカデミー賞を受賞して評判になっていました。ある山奥の寒村では、70歳を過ぎた老人は近くの山の頂きに捨てなければならないという掟があり、母親を背負って山を登る息子のとまどいと悲しみを丹念に描き、緒方拳と坂本スミ子の好演とあいまって一大ブームとなっていました。

「1.57ショック」から21年、危機感のみあって国としての対策はあるのかなのか。2009年の「合計特殊出生率」は1.37まで落ちてしまいました。楢山行きの年齢をとっくに超えた私はもう少し生きて、「いこる」の皆さんと一緒に、若い世代が安定した収入を得、安心して子育てが出来る社会をできるだけ早くつくりたいと思っています。

動けなくなった老人や、親からの虐待や育児放棄で命を絶たれた子供たちがゴミ同様に放置されるような世の中はもうマッピラです。

2010年9月15日 記
つむら あきこ (いこる代表)

いこる草



津村 明子

2010年9月7日、沖縄県・尖閣諸島で中国漁船と海上保安庁の巡視船が衝突。公務執行妨害容疑で逮捕した船長を除く船員14人が13日に、船長についても処分保留で釈放（那覇地検）するという事件が occurred。

衝突の瞬間の映像が巡視船によって撮影されていたにもかかわらず一般に公開されず、国民には内緒にするなど政府の対応に不満が高まり、一方中国は高圧的な態度で日本を非難、物流や人的交流もギクシャクしたものになりました。

その後11月23日には北朝鮮が突然、韓国の延坪島（ヨンピヨンド）を砲撃し、28日には黄海で米韓合同軍事演習、12月3日には自衛隊と米軍の日米共同統合演習がおこなわれるなど、一挙に軍事危機がたかまりました。

戦争はいつもお互いの国民が知らない間に突然起こるのが常なのです。日本の場合も、1937年の日中戦争、1941年のアジア太平洋戦争がそうでした。日中戦争の始まりがどうだったか、まだ赤ん坊で知りませんでした。太平洋戦争開戦は1年生だったのでよくおぼえています。12月8日の朝刊に「今未明、ハワイ真珠湾を攻撃！ わが軍は、英・米と戦闘態勢に入れり！」という活字が躍っていました。

「特殊潜航艇」5隻で、米軍基地の軍艦を沈め、乗員全部が名誉の戦死を遂げて、「軍神」となった軍服の海軍兵士の写真が紙面をおおい、国民をいやがうえにも鼓舞したのです。でもこれはプロパガンダで、攻撃は空爆、潜航艇は役に立たなかったことが戦後になってわかりました。

「やったあ！ やったあ！」「鬼畜・米英をやっつけろ！」と躍りあがって喜ぶ大人たちの姿が60年たった今でも忘れられません

このところの、中国、朝鮮半島をめぐる危機的状況の中、最も心配なことは国内で一部の人たちから「憲法9条」（戦争放棄）の改変が取りざたされたり、民主党版の「防衛大綱」がいやにスピーディーに閣議決定されたことです。

迷走を続ける現政権は早く態勢を立て直し、平和憲法を掲げて周辺の国々をリードする気概をぜひ持ってほしいと切望してやみません。

2010年12月20日 記
つむら あきこ（いこる代表）

いこる草



津村 明子

かつてテレビ業界で働いていた者にとって、今年は歴史の大きな転換点、テレビ局が今のままで生き残れないような気がしています。まもなく、7月24日にはアナログ放送が地上デジタル放送へ完全移行します。

私が1960年に大阪のNHKに入ったときには、まだラジオ全盛時代で、大阪放送局発のテレビ番組は1週間に1度ぐらいでした。そのときは大変。制作フロアの全員がテレビの前に集まり、固唾（かたず）を呑んで見守るのでした。もちろん生放送（録画でない）で、画面はカラーでなくモノクロ（白黒）でした。

当時、NHKでは、新人は一人のベテランと四六時中行動を共にし、しごかれる……というシステムをとっていました。私の先生は、福岡局から大阪に転勤してきたベテランで、ラジオのドキュメンタリーを得意としていました。重い録音機を担ぎ、1日中、大阪市内を歩きました。1963年の秋、産休明けで復帰すると、もう世の中はテレビ時代、「きょうの料理」から始まって、青少年、幼児、小学生などの取材でとびまわりました。その間にもナマから録画へ、モノクロからカラーへとめまぐるしく変化して行きました。

最近のある調査機関の「メディアへの接触時間調査」によると、1年前と比較して最も減ったのが「地上波放送のリアルタイム視聴」、増えたのは「パソコンでのネット利用」とのことです。既存メディアとネット系メディアとの「世代交代」が急速に進んできたようです。それを象徴するのが、小沢一郎衆議院議員のネット系メディア（ニコニコ生放送）出演と沖縄・尖閣諸島沖での中国漁船衝突映像の「ユーチューブ」への流出です。

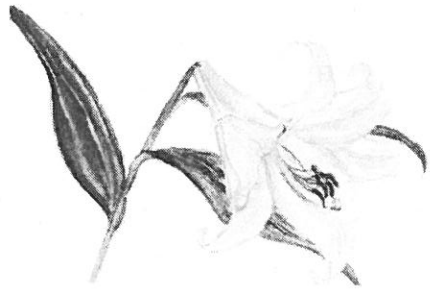
なぜこの二つがテレビではなくネット系メディアに流れたのでしょうか。テレビのナマ中継は大掛かりで（中継車、大勢の技術陣など）、簡単には出来ません。ネット系メディアの場合はたった一人で生中継をやってしまうのだそうです。小沢氏の生出演では22万人超の視聴者を集めたそうです。

3月10日に、NHKの「クローズアップ現代」〈テレビはいらない？ ～急成長するインターネット放送～〉を見ました。若い人たちの意見では、「テレビは情報を編集して押し付けてくる、自分で情報のすべてを知りたい」「インターネット放送では、視聴者の意見がすぐ画面に流れ、みんなでワイワイ楽しめる」「各テレビ局の横並び放送はつまらない」（今回の東日本大震災の放送はまさにその通りの横並びだった）

ラジオ番組が生き残っているように、テレビ放送とインターネット放送は共存できるのか、注目していきたいと思います。

2011年3月15日 記
つむら あきこ（いこ☆る代表）

いなる草



津村 明子

京都市内で0歳から保育所で育った息子が学齢に達したとき、大阪市内の夫の実家に引っ越してきました。まだ学童保育が確立していなかったことと、私の大阪での勤務が、だんだん忙しくなってきたからです。ちょうど、「千里万博」開幕の年でした。

「ウルトラマン」と「野球」が大好きな息子と、忙しい母親の最高の団欒の場が、プロ野球のナイター観戦でした。だんだん親離れしてきて、友達と遊ぶ方がよくなってきていた息子も、野球だけは喜んでついてきました。当時大阪市内には二つの野球場があり、最寄りの地下鉄の駅で待ち合わせ、手をつないで向かいました。

こどもはコーラ、私はビールを飲みながら涼風に吹かれて、学校のこと、友達のこと、一緒に住むようになったおばあさんや3人のおばさんたち（夫の妹たち）のことなど、話はつきません。

でもただ一つ困ったことがありました。試合が始まる前のセレモニー、メインポールへの日の丸掲揚と国歌斉唱です。起立しない私に「ママ！ みんな立ってはんで！ 早よ立ち！」と困惑気味の息子。「ママは立たへん！ 帰ってからゆっくり話するから」。

昭和16年（1941年）、私が小学校1年生になるとき、突然「尋常小学校」が「国民学校」と制度が変わり、子どもたちは「小国民」とよばれ、拳国一致の軍事態勢へと突入していきました。祝日には一番いい服を着て、家ごとに掲げる「日の丸」の中を登校し、「式」の最初は天皇・皇后の「ご真影拝謁」、「君が代斉唱」、校長が「教育勅語拝読」、生徒が「勅語奉答歌斉唱」、校長の訓話と続きました。そして早くもその年の12月8日、真珠湾攻撃による日米開戦となったのです。日の丸の旗の下、近隣の国々に攻め込んで多くの人々を殺傷し、自らも多くの国民を失い、2発の原爆投下でやっと降伏した悲しい歴史を忘れることは出来ません。

このたび、大阪府知事が率いる「大阪維新の会」が府立学校教職員に「君が代」斉唱時の起立を義務づける条例を府議会に提案し、多数を恃んで可決に持ちこみました。今後市町村立学校にも広げ、従わなければ懲戒免職にする方針を打ち出しています。また、最高裁も「君が代」斉唱を教職員に命ずることを、裁判官の全員一致ではないものの、合憲との判断を下しています。国民全体を、「日の丸」「君が代」のもとに戦争に駆り立てた過去の歴史を実体験した世代も残り少なくなってきました。若い人たちが誰にも強制されない自由な生き方が出来るよう頑張りたいと思います。

2011年6月15日 記
つむら あきこ（いこ☆る代表）